

	和名(別名)	科名	備考		和名(別名)	科名	備考
37	エゾムラサキツツジ(トクワゲンカイ)	ツツジ科	広葉樹	40	エゾニワトコ	スイカズラ科	広葉樹
	 <p>エゾムラサキツツジは、北東アジアに原産し、高さが1~2メートルになる半常緑低木で、日本では北海道に自生種が見られる。よく枝分かれし、その先端に直径2~3センチの紅紫色の花を数個集まってつける。花冠は漏斗形で、5個に深く裂ける。葉は枝先に集まってつき、楕円形~長楕円形で、先はとがらず縁はしばしば外側に巻く。質は硬く、光沢があり、両面に鱗片毛が密生する。</p>	 <p>落葉広葉樹、高さ5m、太さ20cmほどになる。山や原野などに生える。夏から秋に赤く熟す果実がきれいである。別名カラスノミとも言う。5月~6月に咲く落葉低木。漢字で「蝦夷接骨木」と書きます。接骨木は、骨折した時の薬として利用されたことから付けられた名前だそうです。至る所で見ることのできるごく普通の低木ですが、花の色はパッと目立つものではないため気づかないことが多いようです。夏の初めには果実が熟します。普通実の色は赤い色なのですが、時に黄色い実を付けるものがあり、学者によっては、キミノエゾニワトコと呼ぶ人もいます。</p>					
38	ヤチダモ(タモノキ)	モクセイ科	広葉樹				
	 <p>ヤチダモは北海道、本州、朝鮮に分布する落葉高木。湿原の周辺などの湿潤地に生育する。北陸では畦などに列植し、イネを干す為に利用したという。元来は冷涼な地域に生育するので、岡山県では県北の脊梁地帯にわずかに生育する程度である。北海道では、街路樹にも多数植栽されていた。大きなものでは直径1mにも達するという。葉は羽状複葉で、枝は太い。雌雄異株であり、花は4~5月に咲く。秋に翼のある長さ2.5~3.5cmの果実ができる。</p>						
39	ハシドイ(ドスナラ)	モクセイ科	広葉樹				
	 <p>山地の林内に生育する落葉小高木。ライラックに代表されるハシドイ属はユーラシア大陸に約30種が分布し、日本にはハシドイのみが自生する。5~7月に枝先に円錐花序を出し、小さな芳香のある白色の漏斗形の花を多数つける。花冠は4裂する。葉は対生し、葉身は5~10cmの広卵形、先が尖り、縁は全縁。街路樹や公園樹などで植栽される。材は建築用に利用される。</p>						